

鹿沼市議会 / 立憲民主党ニュース

2022年8月1日 Vol. 22

発行: 鹿沼市議会立憲民主党 大貫 毅

令和4年第2回鹿沼市議会定例会(6月議会)報告

5月25日から6月20日まで、令和4年第2回定例会(6月議会)が開催されました。令和4年度の一般会計補正予算、新庁舎整備建設工事について、賃金等の急激な高騰に対処するための全体スライドの適用及び一部設計変更のための工事請負契約の変更、副市長の選任、人権擁護委員の推薦などについて、それぞれ審議を行い決定しました。また、鹿沼市スケートボード協会から出さ

れたスケートボード練習場の設置を求める陳情書については、継続審議としました。市政一般質問では16人の議員が質問に立ち、市政について質しました。大貫毅議員は、「移住定住の戦略的推進」「リノベーションまちづくり」「総合的な治水対策の推進」について一般質問を行いました。以下、一般質問の内容、議会で決定された事項について報告いたします。



鹿沼の認証材をふんだんに活用した新議場

議会で決まった主な予算、条例、制度

補正予算、緊急経済対策など6億3,711万円

国の緊急経済対策として実施する子育て世帯及び非課税世帯への臨時給付金の給付事業の他、新型コロナウイルス感染症及び原油価格・物価高騰対策の支援事業などに対応する6億3,711万円の一般会計補正予算を決定しました。財源は主に国の臨時交付金となっています。主な事業の内容は以下の通りです。

- 臨時特別給付金事業 145,541千円
住民税非課税世帯及び家計急変世帯へ1世帯あたり10万円の給付
- 子育て世帯生活支援特別給付金事業 104,730千円
低所得の子育て世帯に対し、児童一人あたり5万円の給付
- 商業振興推進事業費 98,390千円
物価高騰等に対し、消費刺激策としてプレミアム商品券事業を支援。コロナウイルス対策経営強化補助金
- 学校給食事業費 29,564千円
給食材料費の上昇を受け、給食水準を維持するための経費
- 観光施設整備事業費 16,144千円
屋台のまち中央公園「掬翠園」のコワーキングスペース化に向けた整備委託費
- タクシー事業者への応援金給付など 23,375千円
タクシー一台あたり5万円の給付

新庁舎整備建設工事請負契約の変更を決定

高騰する資材や人件費などによる物価スライドの適用によるものと、出退庁管理システムの導入、杭長の変更、壁画の設置(旧庁舎内にあった壁画を駐車場の議会棟東側に設置)などの設計変更にもともなう契約金額の変更となっております。

変更前金額	5,601,959,000円
変更額(増)	272,635,000円
変更後金額	5,874,594,000円

スケートボード練習場の設置を求める陳情書は継続審議

鹿沼スケートボード協会より、スケートボード練習場の設置を求める陳情書が出されました。陳情書の趣旨として、①安全にスケートボードが出来る環境を作りスポーツを通じて青少年育成、②地元住民のコミュニケーションの場として地域活性化の2点があげられています。東京五輪の効果もあり、全国的にはスケートボードパークなどの設置が行なわれていますが、設置後の運営等に課題もあるようです。さらに、調査を継続することとしました。

副市長人事、福田義一氏の再任を同意

市長より、副市長人事について同意を求められ、引き続き福田義一氏の副市長選任を同意しました。副市長の任期は4年です。

双方向の意見交換で市民が主役の政治を目指します! どなたでも参加できます。参加費無料、定員50人。

第23回タウンミーティング(対話集会)開催します!

とき 9月4日(日)15時~17時

ところ 市民情報センター2階・子育て情報室

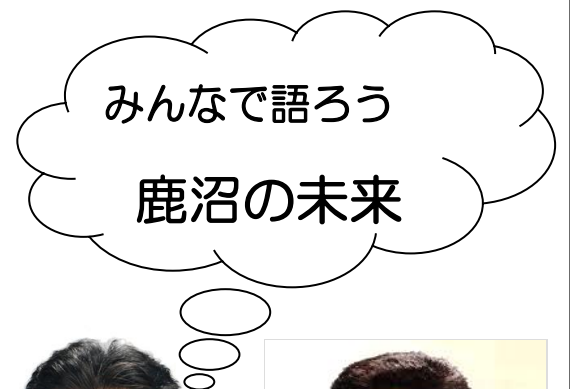
内容 ①県議会・市議会報告、質疑

②参議院選挙を終えて立憲民主党の進むべき方向
参院選大変お世話になりました。率直な意見をお寄せください。

③意見交換(自由討論)

主催: 鹿沼市議会立憲民主党 / 立憲民主党鹿沼市支部
問合せ: 松井事務所 TEL0289-74-6325

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事前申し込み制、定員50人とさせていただきます。松井事務所まで申込みください。参加の際はマスク着用をお願いします。



松井正一 県議



大貫 毅 市議

市政一般質問報告

一般質問とは、議員個人が市の事務の執行状況や将来に対する考えなどの報告や説明を市長などに求め、市が市民のための適切な市政運営を

進めているかを議員がチェックするものです。

立憲民主党として、次のような一般質問を行いました。

＝主な質問事項＝

1 移住定住の戦略的推進について

- (1) どこに、どんな人を、どのような資源を活用して呼び込むのか、より具体的な戦略が必要なのではないか。
- (2) 人口動態、地域資源は地域によって異なる。地域住民を巻き込んだ地域ごとの戦略づくりが必要ではないか。

2 リノベーションまちづくりについて

- (1) 立地適正化計画ではリノベーションまちづくりの推進が謳われているが、今後の取り組みについて伺う。
- (2) 一定のエリアを決めて推進していくべきではないか。その際、住民とどのようなまちの未来を描くのか、ビジョンを共有すべきと考えるがどうか。
- (3) 空き家の解体や利活用をより促進するための誘導策が必要ではないか。

3 総合的な治水対策の推進について

- (1) 今後どのような取り組みが行なわれるのか伺う。
- (2) 黒川周辺の対策はどのように行なわれるのか。特に、睦町、文化橋町、朝日町などの木島堀周辺、下武子町など西武子川周辺の対策はどのようなものになるのか伺う。



【執行部答弁要旨】

1 移住定住の戦略的推進について

令和元年に定めた「移住・定住促進スキーム」を今年度見直す予定。今後も引き続き、メインターゲットを明確にし、地域おこし協力隊などの外部人材も活用しながら、地域資源を活かした、就労・居住・子育てなどを一体的にブランドメッセージとして移住者が共感できるよう、効果的な支援策を実施する。

地域への移住において、特に重要なことは、地域と移住者のニーズのマッチングと交流機会の創出。各地域の人口動態や地域資源、課題などを地域住民と共有しながら、地域の特性を活かした戦略づくりを進めていく。

2 リノベーションまちづくりについて

昨年12月には、公民連携による民間主導のまちづくりを進めるため、UR都市機構と「まちづくりに関する連携協定」を締結した。現在、UR都市機構が銀座通りの空き店舗を活用し、リノベーションまちづくりの拠点づくりを計画し、その施設運営方法などについて調整中。

地域のみなさんと地域のビジョンを共有することは最も重要なことであり、公と民が協働して進めていく中で、ビジョンを共創して描いていきたい。

現在、不良住宅等の解体に要する費用の一部を助成しているが、リノベーションまちづくりのための誘導策については、他地域との公平性なども考慮しながら今後検討する。

3 総合的な治水対策の推進について

本年3月25日に、栃木県、独立行政法人思川開発建設所、本市で構成する「鹿沼市総合治水対策協議会」を立ち上げた。本年度の取り組みは、①重点的かつ総合的に治水対策を実施すべき地区の抽出と課題解決策の検討、②「ハードとソフトが相互に連携・連動した治水対策の検討」について、協議会や下部組織の幹事会、ワーキンググループなどで協議・調整を行なう。

「栃木県流域治水プロジェクト」の3本柱、①氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策、②被害対象を減少させるための対策、③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策に基づき、河川の流域のあらゆる関係者が協働して水災害の軽減に取り組む。木島堀周辺についてもハード策とソフト策が一体となった総合的な治水対策を進める。

西武子川周辺の対策は、洪水に対する安全性を高めるため、県において「調節池の整備」を進めている。



大 貫 毅

おおぬき たけし

教育福祉常任委員会
政策調査委員会（副委員長）
現在、3期目
TEL 090-7736-2017
Mail takeshi@one.bc9.jp

☆タケシの一言

東北地方を中心に豪雨災害が多発しています。お盆を前にして本当にお気の毒と思います。鹿沼市も関東東北豪雨や令和元年東日本台風では大変な被害を被ったわけですから、他人事ではありません。

さて、過去に被災をした場所は様々対策が行なわれているわけですが、木島堀周辺などの対策はまだ不十分と思います。市ではハードとソフト両面から総合的な治水対策を行なうとのことですので、大いに期待をしているところです。出来るだけ、不安を抱えた住民のみなさんに見える形での対策を進めていただきたいと思います。

コロナ禍に思う part 9

コロナ禍とアウトドアブーム

新型コロナウイルス感染症は第7波に突入しましたが、政府は行動制限を行わないとの方針であり、3年ぶりに行動制限のないお盆を迎えています。多くの観光地で人の賑わいが戻っているようです。

そんな中、密かなブームとなっているのがキャンプやBBQ（バーベキュー）などアウトドアのレジャーです。ある民間調査会社がインターネットを通じて約1,500人に行なった調査では、全体の約5割、10代から20代にいたっては約6割が「キャンプに行ってみよう」と答えています。「人混みを避けたいけど、家に閉じこもっているのも限界」といった思いがアウトドアブームに向かっているのでしょうか。コロナ禍で若者の目が街中から自然へと向き、自然の魅力に気付く人が増えていくことは良いことだと思います。

一方、アウトドアブームの中で問題となっていることがあります。大芦川には夏になるとたくさんの川遊び客が訪れます。コロナ以降、特に増えている状況です。地域の活性化に人の流れを作ることは不可欠ではありますが、そこにはマイナスの面も必ず生じます。路上駐車、ゴミの

投棄、事故、喧嘩など色々起こっています。地元のみなさんには夏期の臨時駐車場開設、河川清掃やパトロールなど献身的に行なっていただいております。また、市では若手職員を中心にプロジェクトチームが結成され、地元の方たちと協力して活動いただいております。路上駐車は一時から比べれば改善していますが、ゴミの問題は相変わらずといった状況です。市議会でも度々取り上げられている大芦川の問題ですが、いくつか課題を上げてみます。

- ① 川遊びのルール化、条例等による規制
川遊びエリア、釣りエリア、環境保全エリアなどゾーニングを図る。ゴミ投棄、飲酒による喧嘩などの原因となるバーベキューの規制。これらを条例化してはどうか。
- ② オーバーツーリズム対策
駐車場予約システムの構築。最新の技術で過疎地の課題を解決できないものか。駐車場数で訪れる人を制限する。
- ③ 民間事業者の誘致
キャンプ場、BBQ場など大芦川に訪れる人を受け止める施設整備と地元雇用の創出はできないか。
- ④ 大芦川を愛するファンの育成
関東一の清流といわれる大芦川を守っていくための人材を育成し、ブランド価値を高める。訪れる人の行動変容を促す。

さらに議会情報を知りたい方は、鹿沼市議会のホームページへアクセスしてください。議会の動画配信も行っています。